

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2071500330		
法人名	医療法人社団敬仁会		
事業所名	グループホームまほろば		
所在地	塩尻市大字宗賀1295		
自己評価作成日	平成28年9月30日	評価結果市町村受理日	平成29年2月17日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社マスネットワーク 医療福祉事業部
所在地	長野県松本市巾上13-6
訪問調査日	平成28年11月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者に寄り添った支援を心掛け、尊厳を大切に、穏やかにそして安心と安らぎのある施設作りを行っています。家族、利用者の希望により看取りケアを行います。馴染みの環境の中、馴染みの顔ぶれで最後まで看取らせて頂きます。利用者、家族の意見、希望を大切に、その人らしく最後まで生活が送れるように努めております。利用者、家族、職員がいつでも笑顔でいられる事を大切にしています。施設理念「共に支え、支えられる関係」作りを目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホームまほろば」は「医療法人社団恵仁会」を母体を持ち、桔梗が原病院に隣接して設置されている。近隣には葡萄畑が広がり季節感が得られる好環境の中にあり、利用者にとって馴染みの場所となっている。管理者は地域密着型サービスの意義や役割を考えながら施設理念「共に支え、支えられる関係」作りを職員間で話し合いケアサービスの実践に活かされている。母体との医療連携や研修体制を活用して職員の質の向上に努めている。利用者、家族等の大きな関心と不安の一つが、重度化した場合のあり方であり、事業所では利用者、家族、医師、訪問看護師等と情報交換や相談に努められている。利用者、家族の安心と納得が得られるような看取りに向け職員一丸となって支援に当たられており、利用者、家族の満足感につながっている。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

ユニット名()		項目	
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	<p>理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>法人理念である「共に歩む」を基に、施設理念「共に支え、支えられる関係」と掲げ、職員がいつでも見え、確認できる所に掲示し、日々努力している。</p>	<p>法人理念を基本としつつ、地域密着型サービスの意義や役割等が反映された事業所独自の理念をつくり、全職員が共有して日々のサービス提供場面で話し合い支援に努めている。</p>	
2	(2)	<p>事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>入居者の身体機能の低下により、地域行事には参加できなかったが、施設行事の中で、保育園の子供や、地域の方の参加があり、交流する事が行えている。</p>	<p>入居者の高齢化により身体機能の低下が見られる中で事業所内で「喫茶店」を開き地域の方に呼びかけるなど交流に努めている。併設施設の売店での買い物や施設内の散歩時等でも交流が図られている。</p>	
3		<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>運営推進会議の会議内容を、法人の職員の協力を得て発信しているが、始めたばかりなので、地域の方の参加数が少ないが、今後も継続し、多くの参加を得られるよう地域に発信していきたい。</p>	/	/
4	(3)	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>会議開催時に出た質問、ご意見、感想等を会議に役立てている。また、文化祭等に参加して頂き、認知症の理解を深めて頂いている。</p>	<p>運営推進会議には利用者、区長、民生委員、行政担当職員等の参加を得て年6回開催されている。事業所の活動報告や参加者から出された質問、意見、要望、感想等を受け双方向的な会議となるよう配慮されている。なお歯科クリニック院長医師を招いて「認知症と噛み合わせ」と題しての講話が行われている。</p>	<p>今後更に地域の理解と支援を得るために、地域の様々な業種の方々(警察署、近隣商店主等)の参加を頂き、専門性を活用して、利用者の安心、安全な生活を送れるよう期待する。</p>
5	(4)	<p>市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>介護相談員の訪問や、介護課、包括支援課の方に相談、情報提供を行い協力して頂いている。</p>	<p>市から派遣されている介護相談員2名が訪問して、サービス状況、感想、利用者からの相談等により利用者状況の把握に協力をされている。また、担当課に事業所の実状を伝え改善に向けた相談が行われている。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>身体拘束を行わなくても、ケアが出来るよう取り組んでいる。</p>	<p>管理者は身体拘束をしないケアの実践に努めており、利用者支援の場面場面の中で職員に指導されている。利用者一人ひとりの心身の状態を見極めて、身体拘束を必要としない状態を作る方向を追求し、介護上の工夫に努力されている。</p>	
7		<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>認知症の理解を深める事により、虐待に繋がらないよう職員の精神的負担や、悩みを皆で話し合い虐待防止に努めている。</p>		
8		<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>研修等で勉強している。</p>		
9		<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時に家族と読み合わせを行い、質問等一項目ずつ確認を行い理解して頂いている。</p>		
10	(6)	<p>運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見箱を設置したり、アンケート調査を行ったり、気軽に相談、意見が伝えられる環境作り、関係作りをしている。</p>	<p>来訪時に意見が自由に投函できる意見箱の設置やアンケート調査を実施している。9人中8名分が回収されている。家族が実際に、気がかりなことや、意見、要望を職員に気軽に伝えたり相談しやすいよう、働きかけが行われている。また、利用者には日頃の寄り添いのケアの中で把握に努めている。</p>	
11	(7)	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>いつでも意見や提案を聞ける環境作りをし、改善したり、反映できるよう努めている。</p>	<p>利用者の入れ代わりや職員の交替は馴染みの関係がゆらぐ重要な時であり利用者や新規職員の人選には特に気配りをされている。朝夕のミニカンファレンス時に現場職員の考えや意見を聞き反映されている。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	働きやすい環境作りに心掛け、職員がいつも笑顔でいられるよう努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で行う研修会に参加できるよう確保に努めている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設の方の訪問時に、意見交換や相談をしている。他施設との交流の機会が少ないので、今後機会を増やせる努力をしていきたい。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者の思い、生活史、環境等本人、家族、友人、親せきの方から情報を頂き、不穏時の状況、訴えを職員間で話し合い不安が減り、安心して頂けるよう努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	いつでも相談して頂けるよう日頃から努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の話に耳を傾け、できる限り必要としている支援に近づけるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に職員は、入居者を「人生の先輩である方」とし、尊敬、受容、共感できる関係作りに励んでいる。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設理念である為、関係作りが出来るよう努力している。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの関係が壊れない環境、サービスに努めている。毎日行っている脳トレの中に「手紙を書きましょう」と言うものがあり、その手紙を相手に送っている。	事業所を利用した後も、今までと変わらない生活が営めるよう、知人、友人等の把握に努め訪問して頂いたり、手紙(暑中見舞い、夏祭りの招待状、年賀状等)や電話での連絡を取り持つ等、つながりを継続できるよう働きかけを行っている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知症のレベルにより、他の入居者とコミュニケーションが取れない方もおり、職員が間に入り孤立しないようにしたり、中の良い方達との席順を配慮している。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	年賀状や、お知らせ等を送らせて頂いている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	カンファレンス、ミーティングを開きケアプランの見直しを必要に応じて行っている。常にその人らしくするにはと、話し合いを行っている。	利用者の思いは日常の関わりの中でコミュニケーションを図り把握に努めている。関わりの中でふと洩らしたつぶやきをのがさず聞き取り、一人ひとりの思いや希望の把握につなげるよう努めミーティング時に職員間で話し合い検討されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者とのコミュニケーション、家族からの情報提供、親せき、友人からの情報提供により、把握できるようにしている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各自が出来る事、理解できる事を日常生活の中から発見、気付を話し合い把握に努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者、家族、他職種との連携を図り、カンファレンスに参加して頂き計画作りを行っている。	チームで作る利用者本位の介護計画の作成に当たり、利用者をよく知る家族や関係者(訪問看護師等)と連携してアセスメントを含め、参加者全員で意見交換やモニタリング、カンファレンスを行い、気づき、意見、要望を反映した介護計画を作成されている。(新しいアセスメント様式使用に向け検討中とうかがった)	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録、業務日誌、朝の申し送り等、職員全員が情報を共有でき、実践、見直しを行っている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	時々の状態に合わせ、サービス内容を検討できるようにしている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方の力をお借りしながら、楽しく生活が出来るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>事前説明の折、確認を行っている。</p>	<p>利用者、家族の希望に沿ったかかりつけ医での受診となっている。現在は利用者の希望により事業所の協力医での受診となっている。誕生日月の健診も行われている。</p>	
31		<p>看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>週1回の訪問看護師が見えた際、相談や意見等を聞いている。また、月1回行われるカンファレンスに参加して頂き意見交換やアドバイスを頂いている。</p>		
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>法人が病院なので、関係者と情報交換が出来る。</p>		
33	(12)	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>御家族、医療関係者、介護職と話し合いを行い、看取りにおける指針を作成したり看取り介護の同意を得ており、看取り体制が出来ている。</p>	<p>事業所では看取りにおける指針の作成や、看取り介護の同意を受けており、看取り体制が確立している。利用者、家族の意向を踏まえ、医療関係者、職員が連携を図り、安心して納得した最期を迎えられるよう、随時意思確認をしながら取り組まれている。</p>	
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>緊急時の対応を、医師、看護師から指示を受け、職員が対応できるようにしている。</p>		
35	(13)	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回の防災訓練や、施設でのミニ訓練、法人の防災訓練への参加、緊急時地域の方の協力が得られる体制が出来ている。</p>	<p>消防署立会いに基本2回の防災訓練や施設でのミニ訓練、法人防災訓練に参加されている。訓練実施後反省会(感想)等により、防災に対する意識の高揚に努めている。なお訓練に備え緊急連絡網、防災見取り図等も作成されている。また、緊急時における地域の協力体制が確保できている。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人が、「接遇教育」を重視している為、常に利用者に対しての、言葉かけや、尊厳を大切にしている。更に職員は、利用者を理解し人格を尊重しようと努めている。	新入職員に対して法人が「接遇教育」を実施している。 利用者一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけを全職員がしないケアに向けての対応に配慮されている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の訴えを聞いたり、様子を観たり、つぶやきを聞き逃さないようにし思いや願いをできるだけ叶えるようにしているが、その思いを否定される家族もいらっしゃるので、話し合いを行い協力が得られるよう努めている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	御利用者最優先。一人ひとりのペースに合わせたサービスを行えるよう努めている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしいおしゃれや身だしなみができるよう支援している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日常は、病院からの食事提供を行っているが、行事を多く行い、季節感や、希望メニューを提供できるようにしている。年2回喫茶店も開店している。また、外食支援も行う。	事業所では利用者への対応を主体に置かれており、日常は隣接病院よりの食事提供を行なっている。しかし「おやつ」や季節料理(おはぎ、桜餅、お好み焼き、お鍋等)は職員手作りによる喜びや楽しみをもたらすような支援に努めている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	病院からの食事なので、栄養面、食事形態等は栄養士、ST、訪問看護師等と連絡を取りながら支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科往診が週1回入っているため、検診や歯磨きの指導等して頂いている。法人のSTの協力も得ている。口腔ケアには力を入れている。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日常生活から、気配り、目配りを行い、自力排泄が行えるよう食事、運動、医療連携を行い取り組んでいる。	利用者一人ひとりの排泄時間や習慣(サイン等)を把握して支援されている。また、スムーズな排泄に向け利用者に合わせた食事支援(ヨーグルト、牛乳、オリゴ糖等)に配慮されている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事、水分、楽しく運動が出来るようにし、便秘改善に努めている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴が楽しく、リラックスできるように努めている。季節行事も取り入れている。	入浴時には入浴剤(バブ等)を使用して血行促進に努めるとともに適切な言葉かけにより楽しくリラックスした入浴支援が行われている。また、季節風呂(菖蒲、柚子、ハーブ等)も提供されている。 利用者の心身状況の把握に努め足浴時にも入浴剤(バブ)を入れ爽快感を楽しまれている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体操、散歩、施設内の雰囲気作りを行ったり、シーツ交換、布団干し等を行い気持ちよく入眠できるように努めている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が服薬に関して理解し、薬が変わったりした時は、特に変化を見落とさないようにし、職員が情報交換を行っている。配薬ミスが起こらないよう何度もチェックしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方が、ストレスを感じなく行える役割分担をお願いしている。その日にやりたい事を尋ね、できるだけ実施できるように努めている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別支援を行える環境作りを心掛け、利用者の希望により外出したり、散歩に出掛けたりしている。ご家族の協力も得ている。	利用者一人ひとりの身体状況や希望に沿った対応に努めている。 散歩の時の手引きや車椅子使用など休みながら、あわてずに支援しながら病院内の売店や近隣のおやき屋さん等へ出かけている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は、施設で行っているが外出の際支払をお願いしている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望によりいつでも電話がかけれるようにしている(家族の了解を得て)手紙も自由に出せるようにしている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	認知症の症状に合わせ、できるだけ居心地の良い環境、雰囲気、季節感、を出せるように努めている。	事業所では利用者の抛りどころや馴染みの場所、安心感のある場所となるよう季節感のある作品、生花や家庭的な雰囲気を醸し出すのれん等を使用されている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファで過ごされたり、好きな席でTVを観られたり、席順を考えたりして居場所づくりをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	認知症の程度により異なるが、馴染みの家具や、趣味のお花、TV等居心地の良い環境作りを、家族協力のもと行っている。	家族の協力を得ながら利用者が使い慣れた品(洋服、机、椅子、テレビ、ラジオ等)や癒しが得られる趣味の花を置いて居心地よく過ごせる居室となるよう配慮されている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりのできる事できない事を、職員が情報交換を密にし、できない部分への支援の仕方や、安全面にも配慮しできるだけ自立した生活が送れるよう支援している。できる事を取らない努力、待ってあげる努力をしている。		

目標達成計画

作成日:平成28年12月9日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	3	現在運営推進会議に出席していただける方を地域の様々な業種の方に広げてきているがお願いしても出席して頂けない方も多い。	派出所のおまわりさんや、近所の商店の方の参加を増やす。	毎月発行している「まほろば便り」を配布する(ご家族の同意を得てから)等してグループホームを知って頂く。	12ヶ月
2					
3					
4					
5					

注)項目の欄については、自己評価項目の を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。